

ART KISS

ライフ 生きることは、表現すること

CAMK 熊本市現代美術館

会期

5.21 → 6.14

2020

(木)

(日)

開館時間：10:00～20:00(展覧会入場は19:30まで) 休館日：火曜日
(ただし5/26㊄、6/2㊄、6/9㊄の3日間はいずれも特別開館)



片山真理《shell》2016 ガトーフェスタ ハラダ蔵(群馬県立近代美術館寄託)

現代アートから弱いロボットまで、11組の表現者と描く私たちの未来

藤岡祐機 / 渡邊義紘 / 松本寛庸 / 大山清長 / 木下今朝義 / 森 繁美 / 片山真理
ソフィ・カル / ICD-LAB(豊橋技術科学大学) / 西本喜美子 / 坂口恭平

vol. 93
SPRING
アートキッスレター

INTERVIEW 片山真理インタビュー

展覧会「ライブ 生きることは、表現すること」の出演作家・片山真理さんのアーティストトーク中止にともない片山さんへのインタビューをこの誌面よりお届けします。

一片山さんがセルフポートレートやオブジェを用いた作品を撮るようになったきっかけは何だったのでしょうか？

私は小さい頃から手仕事や縫い物が好きでした。「作品」として手縫いのオブジェを作り始めたのは今から15年ほど前のことです。それらがどういうものかを説明的に見せるため、自分の身体をマネキンとして使い撮影したことが、セルフポートレートの始まりでした。

まず、手縫いのオブジェやペインティング、カラーージュした箱などを自室に飾り、何度もファインダーを覗き、画を作り込みます。そして自分の立つ位置にぬいぐるみを置き、ビントを合わせるのです。そうしてやっとシャッターが切れる。タイマーやリーズは使用しますが、「絶対、自分自身で“shoot”する」というのが撮影のモットーです。

当時、商業高校でプログラミングを学んでおり、撮った写真を自分で作ったホームページやSNS（Myspace や mixi など）にアップロードする毎日でした。居場所もなく友達もいない十代の私にとって、インターネットは平等に開かれた舞台だったのです。

一片山さんの作品は自室の「中」で撮った初期作品を経て、次第に「外」へと出ていくと言われています。「帰途」という意味を持つ、地元・群馬で撮った《on the way home》シリーズにはどのような背景があるのでしょうか？

私の原風景には、群馬の大きな工場、集合住宅と鉄塔、変電所、ガードレール、土手や川があります。そのほとんどが人の手によって作られ、整備されたものだと思うと、心の奥から希望が湧いてきて、「人はなんでも作れる！なんでもできる！」と、自分の拙い落書きやお裁縫で作ったなんだかよくわからないもの、たくさんさんの手術で形を変えた身体も、それらに通ずると信じて疑いませんでした。けれども、学校に行くようになると、ノートや教科書は同級生にビリビリに破かれ、クラスに私の席はなく、街では「かわいそうに」と言葉をかけられました。建物であれ、形のない心であれ、私たちは



《子供の足の私》2011 ガトーフェスタ ハラダ蔵

それらを立派に作ることもできれば、たやすく壊すこともできるんだ、と思いました。

《on the way home》シリーズを撮影した時、私は娘を妊娠していました。それまでは自分の人生の単位、つまりほんの100年ほどのスパンでしか考えられなかった過去と未来が、娘の人生を考えた時、一気に広がり現実味を増しました。そして、リサーチはしていたものの作品

化することを悩んでいた渡良瀬川で撮影することを決めました。

川は不思議な存在です。川は時代（あるいは歴史？）に似ています。川を知れば、その地域の発展や歩んできた道を知ることができます。様々な夢や希望が流れ着いた先には、一体何があるのか？ その答は、今、生きている私たちの生活の中にあるのではないかと考えています。



《on the way home #001》2016

—《on the way home》の重要なモチーフになっている渡良瀬川は、群馬県と栃木県を流れていますが、その上流で起こった足尾銅山の公害についても関心を寄せているそうですね。

2015年、群馬で家探しをしている間、何度か渡良瀬川の上流にある足尾へ行きました。足尾は、「足尾銅山鉱毒事件」で知られるように、鉱山開発と工場の精錬所の有害物質により山々は禿げ、川の魚は死に、田畑の収穫は激減しました。鉱毒による死者や死産、不作による経済困窮の死者は1000名を超えたそうです。その精錬所は1980年代まで稼働し続け、現在ではそれらの出来事は「歴史」として私たちの教科書に載ってい



ます。その山は私が幼い頃に住んでいた家から車で1時間ほどの距離にあり、その川は生活の風景の中にいつもありました。

自分が参加する展覧会の関連で、2016年には瀬戸内の直島、2018年にはアメリカ・ミシガン州のフリント、2019年の末には熊本の水俣を訪れる機会がありました。瀬戸内の豊島では長年に渡る産業廃棄物の不法投棄による土壌や水質の汚染、フリントでは老朽化した水道管の腐食による鉛汚染など、水俣もそうですが、どれも水と人が密接に関わることで事象が起きた場所ということが共通しています。一方で、それぞれが時代や状況によって、全く違った側面を持っています。過去や歴史は私たちの生活の中であって、メッセージを発し、ときにはサイレンを鳴らし続けているのだと思います。

—《cannot turn the clock back》は、娘さんを出産された後に制作を始めたシリーズだそうですね。

子どもが生まれる時、もし私と同じような障害があったら…とものすごく悩んでいて、「もし何かに困ったら、ママや人の手を借りてね」と、ボロボロのブローケンハートにたくさんの指を縫いつけた作品《gift》をつくりました。しかし、今見るとそれはとてもグロテスクでおどろおどろしく、とても身体に悪そうですね。

生命力の塊みたいな赤ちゃんに「愛」や「希望」と名付ける親の勝手な想いなんて、お互にとって毒にしかならないと思いました。この作品タイトルの「gift」はドイツ語では「毒」を意味するそうです。元来は英語と同じ「贈り物」という意味だったのですが、「毒は与えられるもの」といういかにもドイツ語らしい解釈からきているそうで、自分にはとても腑に落ちるものでした。

—最新作で、ライフ展が国内初公開となる《cannot turn the clock back -surface》や《in the water》は、より自身の身体にフォーカスした作品になっています。

私には両足がなく、義足を使用しないときは手が足の役をこなしています。そのせいか腕も背中も、不自然なほど筋肉がついています。《cannot turn the clock back -surface》はそんな自分の上半身を撮っています。

《in the water》では、ぼんやりとした緑色の背景に赤い発疹とギラギラと輝くグリッターだらけの足がまるで水の中にいるかのように存在しています。自分を悩ましているこの足の発疹は、どうやら私の身体が作った抗体が原因になり、自分自身を攻撃しているのだそうで、こうなると何が敵で何が味方なのかよくわかりません。でもその傷だらけの足を見て、2歳の娘は嬉しそうに駆け寄り、「大好き」といながら頬擦りをするのです。

—今回のコロナ禍で、当館での展示セッティングに来熊できないなど、残念なこともありました。しかしそこから新しい視点も得たそうですね？

コロナの影響で、私も打ち合わせなどをオンラインで行うことが増えました。そこで実感したのは意外にも「障害者の時代が来る！」ということでした。オンライン上では、誰もが「身体」を抜け出し、フラットに存在している感

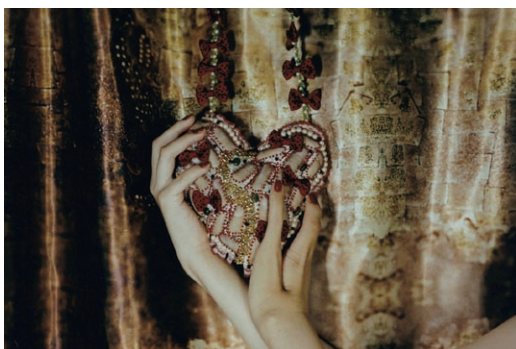
じがします。一方で、これまで私たちが信じて、安心して頼ってきた「身体」は今、とても頼りない存在になっています。

人種や性別にかかわる社会運動はこれまでもありましたが、障害者に関しては「コレ」というムーブメントが感じられませんでした。しかし今回のコロナショックは、私たちに思ってもみなかった劇的な変化をもたらしそうです。(ちょっと自分がコロナ・ハイみたいになっている部分もあるとは思いますが。)

自分の作品で言えば、今構想し始めているのは、展示空間の制約なく発表できる映像作品の制作です。セルフポートレートは自分一人で思うようにできる表現でしたが、映像制作には多くの人が関わってきます。コロナを経て、また一つ自分の表現方法が広がっていくのかなと思っています。

本テキストは、片山真理が2020年2月半ばに執筆した『ANSWER』より採録し新たな内容を加えて再構成した。

片山真理1987年生まれ、群馬在住。
両足ともに脛骨欠損という主幹を成す太い骨がない病氣を持って生まれ、9歳のときに両足を切断。身体を模った手縫いのオブジェや立体作品、装飾を施した義足を使用したセルフポートレートを制作し、国内外で精力的に活躍。その独特な身体をもった一人の女性の人生を、現代アーティストとしての視点からみつめる。
2020年、第45回木村伊兵衛写真賞受賞。



(上) 水俣でのリサーチの様子
(下) 《cannot turn the clock back #009》2017



《in the water #003》2019

臨時休館について

熊本市現代美術館は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2月29日㊥～5月20日㊦の期間、臨時休館しました。
その影響によりライフ展、高浜寛展、川野美華展の会期・会場を一部変更しています。
また、通常は火曜日を休館日としていますが、5月26日㊦、6月2日㊦、6月9日㊦の3日間はいずれも特別開館します。

Gallery III Exhibition

GIII vol.133

高浜寛のマンガに登場するアイテムで読み解く19世紀末(ベル・エポック)
—『ニュクスの角灯』、『蝶のみちゆき』…展

オンラインで展示を楽しもう！



高浜寛本人が案内する
ギャラリーツアー動画
◀[YouTube] Part 1-3

担当学芸員が見どころを
紹介する連載記事
[美術館ブログ] ▶



高浜寛『ニュクスの角灯』1巻書影
©Kan Takahama



2020 会期 2.22 ㊥ — 4.26 ㊦ 7.5 ㊦

本展は会場を井手宣通記念ギャラリーに変更して7.5まで会期を延長します。

Gallery III Exhibition

GIII vol.134

大分出身の若手作家・川野美華の個展。代表作『夜行性の庭』シリーズを中心に約35点を紹介。



川野美華展
Nighthawks



『夜行性の庭Ⅳ』(部分) 2012 弥栄画廊蔵 *2013年に加筆

2020 会期 5.21 ㊥ — 8.30 ㊦

本展の会期は当初4.29-7.5を予定していましたが、臨時休館の影響により上記日程に変更しました。なお7.8-8.30は会場が井手宣通記念ギャラリーに変更されます。

第32回熊本市市民美術展 熊本アートパレード

15歳以上(中学生は除く)の熊本市在住・在学・在勤者
または出身者ならだれでも出品可能な公募展です。
今回の審査員は芸術ユニットの明和電機。

テーマは

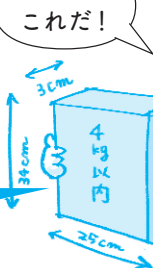
[テーマ発表動画] ▶



「ポスト投函サイズ」であること、です！

詳しくは当館HPまたは募集要項をご確認ください
出品受付 2020 9.2 ㊦ — 9.13 ㊦

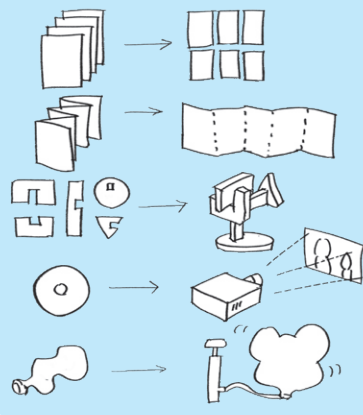
展覧会期 2020 9.26 ㊥ — 11.1 ㊦

テーマは
これだ！

審査員

明和電機

展開して展示も可能！



[来館者の皆さまへのお願い] 新型コロナウイルスの感染拡大を防止し、美術館を安全にご利用
いただくため、ご来館の際には手指消毒・咳エチケットの徹底をお願いいたします。また発熱・咳・
くしゃみ等の風邪の症状がある方は、ご来館をお控えください。皆さまのご協力をお願いいたします。

ART KISS LETTER アートキッスレター Vol. 93 (2020年6月) [次号は8月発行予定]

編集: 佐々木玄太郎 坂本顕子 岩崎美千子 紫垣美帆 デザイン: 石井克昌(MOTOSHIKI) 印刷: シモダ印刷

発行: 熊本市現代美術館 〒860-0845 熊本市中央区上通町2-3 Tel 096-278-7500 Fax 096-359-7892

